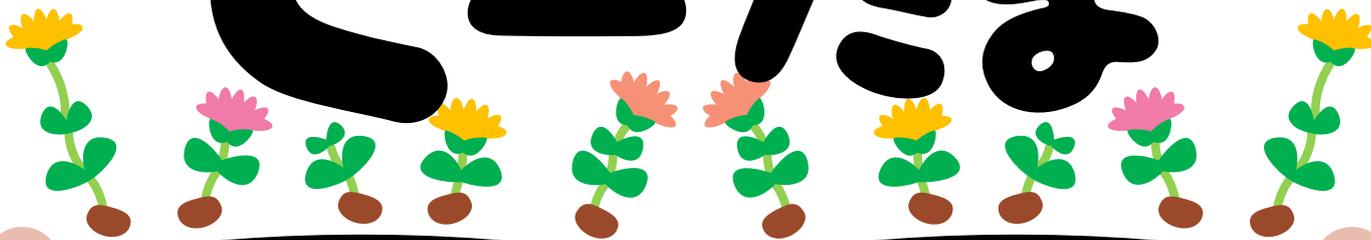


2024年版  
中学生

2024年1月~12月に発行された本の中から  
とくにおすすめの本を紹介します

ビーだまのようにキラリと光る一冊を

# ビーだま



ブックリスト「中学生」2024年版 No.48

【編集・発行】

富山市立図書館

富山市西町5番1号/TEL 076-461-3200

令和7年4月23日発行(年1回発行)



## 6 days遭難者たち

安田夏菜／著 講談社



高校1年生の美玖<sup>みく</sup>は、夏休みに友だちの亜里沙<sup>ありさ</sup>と由真<sup>ゆま</sup>を連れて日帰り登山へ出かけた。登頂した3人だが、下山途中で遭難してしまう。携帯の電波が届かず、助けを呼ぶことができない。3人は、なんとか電波が届く場所に出ようと歩き続けるが、食料はなくなり、段々と携帯の電池も尽きていく。雨に打たれ由真は熱を出す。3日経っても救助は来ない。3人に命の危機が迫る。

# 闇に願いを

クリスティーナ・スーントーンヴァット／著 こだまともこ／訳 辻村万実／訳

静山社



大きな火事が起き、灰の街となったチャッターナーでは、火を使うことが法律で禁止されている。チャッターナーにあるすべてのものは、<sup>そうとく</sup>総督の作りだす魔法の光で動いているのだ。みなから尊敬されている総督だが、刑務所で生まれ育ったポンは、あることから総督の闇を知ってしまう。

看守の隙を見て脱獄したポンは、いまだに火を使っている不思議な村にたどり着く。



# ヤングタイマーズのお悩み相談室

石川宏千花／作 くもん出版

中学1年生の果淋<sup>かりん</sup>は、小学生のころから俳優の皆吉<sup>みなよし</sup>黛生<sup>たいせい</sup>の大ファンだ。その皆吉が初めてラジオ番組をもつことを知り、果淋は有頂天になる。しかも番組は、中学生や、中学生が家族にいる人たちにむけたトーク番組だった。早速果淋は、中学生からの悩み相談コーナーに応募しようとする。

しかし、考えれば考えるほど、自分には悩みがないことに気がついてしまう。



# ぼくの心は炎に焼かれる 植民地のふたりの少年

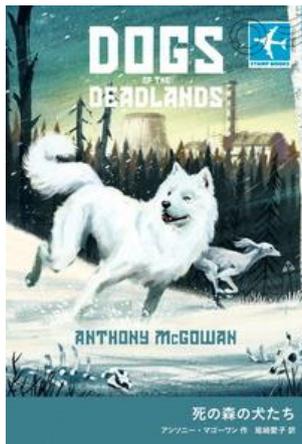
ビヴァリー・ナイドゥー／作 野沢佳織／訳 徳間書店



1951年、南アフリカのケニアは、イギリスの<sup>しよくみんち</sup>植民地だった。ケニアには、白人の支配に強く抵抗する「マウマウ」という<sup>ひ</sup>秘密結社<sup>みつ けっしゃ</sup>があった。農場を営むグレイソン家で下働きをする黒人少年ムゴは、2歳年下の<sup>のうじょうぬし</sup>農場主の息子マシューから<sup>した</sup>慕われている。しかしある夜、ムゴの家にマウマウが押しかけ、ムゴの両親は力づくで仲間の誓いを立てさせられる。

# 死の森の犬たち

アンソニー・マゴワン／作 尾崎愛子／訳 岩波書店



7歳の誕生日に、ナターシャは両親から子犬をもらう。オオカミそっくりの子犬は「ゾーヤ」と名付けられた。しかしその夜、チェルノブイリ原子力発電所で事故が起こり、家族はゾーヤを置いて避難することになってしまう。

置いてきぼりにされたゾーヤは、森の中でたくましく生きていく。一方ナターシャは、ゾーヤを失った悲しみを忘れられず、大人になっても苦しい気持ちを抱えていた。



# ピーチとチョコレート

福木はる／著 講談社

中学2年生の萌々の悩みは、<sup>もも</sup>太っていること。外見で嫌われないよう、クラスでは明るく振舞い、友だちにも本音を話せない。あることから、ヒップホップ・ラップ教室を見学することになった萌々は、そこで同じクラスの莉愛<sup>りあ</sup>を見つける。莉愛もまた、自分の外見が外国人であることに劣等感を抱いていた。

意気投合した2人は、自由に自分を表現できるラップに夢中になっていく。



# 夜の日記

ヴィーラ・ヒラナンダニ／著 山田文／訳 作品社

祖国がイギリスから独立したことで、ニーシャーが住んでいる地域がイスラム教徒の国になった。ヒンドゥー教徒のニーシャーたち家族は、安全な地を求め家を捨てることになる。医師の父、祖母、弟とともに国境を越えようとするが、暴動で列車が使えず<sup>かこく</sup>過酷な砂漠を歩くはめになる。

日々の思いを亡き母<sup>つづ</sup>にむけて綴る少女から見た、インドとパキスタンの<sup>ぶんりどくりつ</sup>分離独立を描いた物語。



## 真実の口

いとうみく／著 講談社



中学3年生の律希<sup>りつぎ</sup>と同級生2人は、雪が降る夜に、迷子の少女ありすを見つけ交番へ連れていく。警察から感謝状をもらうが、後になってありすが母親から虐待<sup>ぎゃくたい</sup>を受けていたことに気がついた。体にロープを巻かれ、家の外につながれていたありすを見つけ出した3人は、今度こそ助けようと決意する。3人はありすを連れて、県外に住んでいる父親を探しに出かけた。



## わたしは食べるのが下手

天川栄人／作 小峰書店

中学1年生の葵<sup>あおい</sup>は、給食を残してはいけないというプレッシャーから、吐いてしまう。同じクラスの咲子も、過食症<sup>かしよくしやう</sup>で苦しんでいた。給食を食べたくない2人に、栄養教諭<sup>きつかわ</sup>の橘川先生が風変わりな提案をする。今の給食に不満があるなら、賛同者<sup>さんどうしや</sup>を集めて、自分たちが食べられる給食を要望書<sup>ようぼうしよ</sup>にまとめるようにというのだ。2人は、思いもよらず給食改革にのりだすことになってしまう。



## わたしの名前はオクトーバー

カチャ・バーレン／作 こだまともこ／訳 評論社



オクトーバーは、森の中で父親と2人きりで生きてきた。自分をおいて森を出て行った母親をオクトーバーは憎んでいる。しかし、父親が怪我で入院することになり、嫌々ながらロンドンで母親と暮らすことになった。高速道路や地下鉄、学校など、慣れない日々はオクトーバーを不安にさせ、追いつめていく。しかし、クラスメートのユスフと友だちになったことで変化が生まれた。